

(様式第10)

国 循 発 総 第 19100405 号
令 和 元 年 10 月 4 日

厚生労働大臣 加藤 勝信 殿

開設者名
国立研究開発法人国立循環器病研究センター
理事長 小川 久雄 (印)

国立循環器病研究センターの業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、平成30年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒 564-8565 大阪府吹田市岸部新町 6 番 1 号
氏 名	国立研究開発法人国立循環器病研究センター

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

国立研究開発法人国立循環器病研究センター

3 所在の場所

〒564-8565 大阪府吹田市岸部新町6番1号 電話(06) 6170-1070

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科		☒ 有 ・ ☐ 無	
内科と組み合わせた診療科名等			
① 呼吸器内科	2 消化器内科	③ 循環器内科	4 腎臓内科
5 神経内科	6 血液内科	7 内分泌内科	8 代謝内科
9 感染症内科	10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11 リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	☒ 有 ・ ☐ 無
外科と組み合わせた診療科名	
1 呼吸器外科	2 消化器外科
3 乳腺外科	4 心臓外科
5 血管外科	⑥ 心臓血管外科
7 内分泌外科	8 小児外科
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

① 精神科	② 小児科	③ 整形外科	④ 脳神経外科	⑤ 皮膚科
⑥ 泌尿器科	⑦ 産婦人科	8 産科	9 婦人科	⑩ 眼科
⑪ 耳鼻咽喉科	⑫ 放射線科	13 放射線診断科	14 放射線治療科	⑮ 麻酔科
16 救急科				

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	☒ 有 ・ ☐ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1 小児歯科	2 矯正歯科
③ 口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 循環器リハビリテーション科	2 病理診断科	3 小児循環器内科	4 小児心臓外科	5 腎臓内科・人工透析内科
6 糖尿病・脂質代謝内科	7 循環器救急科	8 移植外科	9 移植内科	10 心臓血管内科
11 脳血管内科	12 脳神経内科	13	14	15
16	17	18	19	20

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
床	床	床	床	550 床	550 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	145 人	125 人	245.0 人	看護補助者	24 人	診療エックス線技師	人
歯科医師	1 人	1 人	1.8 人	理学療法士	19 人	臨床検査技師	65 人
薬剤師	39 人	5 人	43.0 人	作業療法士	4 人	衛生検査技師	人
保健師	人	人	人	視能訓練士	1 人	その他	人
助産師	20 人	1 人	20.8 人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	647 人	14 人	658.2 人	臨床工学士	24 人	医療社会事業従事者	5 人
准看護師	人	人	人	栄 養 士	人	その他の技術員	3 人
歯科衛生士	1 人	1 人	1.8 人	歯科技工士	人	事 務 職 員	105 人
管理栄養士	5 人	8 人	12.4 人	診療放射線技師	49 人	その他の職員	188 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	46 人	眼 科 専 門 医	人
外 科 専 門 医	15 人	耳鼻咽喉科専門医	人
精 神 科 専 門 医	人	放 射 線 科 専 門 医	5 人
小 児 科 専 門 医	12 人	脳神経外科専門医	8 人
皮 膚 科 専 門 医	1 人	整 形 外 科 専 門 医	人
泌尿器科専門医	人	麻 酔 科 専 門 医	10 人
産婦人科専門医	6 人	救 急 科 専 門 医	1 人
		合 計	104 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (小林 順二郎) 任命年月日 平成30年 4 月 1 日

平成28年4月より当センター医療安全担当副院長として医療安全管理責任者の業務を経験している

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1 日当たり平均入院患者数	462.2 人	0.0 人	462.2 人
1 日当たり平均外来患者数	408.2 人	15.8 人	424.0 人
1 日当たり平均調剤数	1,336.7 剤		
必要医師数	78.1 人		
必要歯科医師数	1.0 人		
必要薬剤師数	16.7 人		
必要（准）看護師数	244.7 人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	1,211.69 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	53 床	心電計	☒ 有 ・ ☐ 無
			人工呼吸装置	☒ 有 ・ ☐ 無	心細動除去装置	☒ 有 ・ ☐ 無
			その他の救急蘇生装置	☒ 有 ・ ☐ 無	ペースメーカー	☒ 有 ・ ☐ 無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積		81.14 m ²	病床数	3 床	
			m ²	病床数	床	
	[移動式の場合] 台 数		台			
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] 床面積		49.73 m ²			
	[共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	396.08 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	全自動臨床検査システム、尿分析装置		
細菌検査室	173.95 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	PCR検査システム、パルスフィールド、電気泳動システム		
病理検査室	174.85 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	電気泳動装置、自動染色装置		
病理解剖室	47.30 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	電子顕微鏡、超低温フリーザー		
研究室	192.16 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	SPECT/CT、タンパク質ペプチド質量分析装置		
講義室	691.72 m ²	鉄筋コンクリート	室数	3 室	収容定員	504 人
図書室	59.41 m ²	鉄筋コンクリート	室数	1 室	蔵書数	10,000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		87.70 %	逆紹介率	88.67 %
算出根拠	A：紹介患者の数	7,004 人		
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	9,067 人		
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	1,963 人		
	D：初診の患者の数	10,225 人		

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
小島 崇宏	大阪M&A法律事務所	○	法律に関する識見を有する	☐ 有 ・ ☒ 無	1
國子 克雄	心を守る会（患者代表）		医療を受ける者の代表	☐ 有 ・ ☒ 無	2
安田 聡	国立循環器病研究センター副院長		医療安全部外の立場からの監査	☒ 有 ・ ☐ 無	3
				☐ 有 ・ ☐ 無	
				☐ 有 ・ ☐ 無	
				☐ 有 ・ ☐ 無	
				☐ 有 ・ ☐ 無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	☒ 有 ・ ☐ 無
委員の選定理由の公表の有無	☒ 有 ・ ☐ 無
公表の方法	
病院ホームページにて公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
アルテプラザーゼ静脈内投与による血栓溶解療法	1人
経胎盤的抗不整脈薬投与療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	アルテプラゼ静脈内投与による血栓溶解療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 睡眠中発症及び発症時刻不明の急性脳梗塞患者に対し、アルテプラゼ0.6mg/kgを用いた静脈血栓溶解療法の安全性と有効性を、標準内科治療群との他施設共同非盲検群間比較法を用いて評価する。			
医療技術名	生体弁機能不全に対する経カテーテル生体弁植え込み術	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 生体弁機能不全に対する経カテーテル再弁置換の施行開心術のリスクが高い生体弁機能不全患者に対する経カテーテル生体弁植え込み術。			
医療技術名	ロボット補助下僧帽弁形成術	取扱患者数	59人
当該医療技術の概要 手術補助ロボット「ダヴィンチ」による低侵襲で僧帽弁形成術を実施しており、現在、プロクターとしては本邦4人中2人がセンター医師である。			
医療技術名	脳血管病に対するハイブリッド手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 単独治療法での対応が困難な頸部頸動脈複合病変や複雑な脳動脈瘤に対して、ハイブリッド手術室での複合治療。			
医療技術名	多孔化カバードステントを用いた頭蓋内脳動脈瘤塞栓術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 脳動脈瘤の外科的治療での処置が困難または脳血管内治療(脳動脈瘤塞栓術)による完治が困難な大型及び巨大脳動脈瘤に対して、経皮的に脳動脈の脳動脈開口部位に留置し動脈瘤内への血流を大幅に抑制して瘤内の血液を停滞させ血栓化を促進させる。			
医療技術名	血栓塞栓症発症リスクの高い非弁膜症性心房細動患者を対象とした BSJ003Wによる左心耳閉鎖療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 CHADS ₂ またはCHA ₂ DS ₂ -VAScスコアに基づく血栓塞栓症発症リスクの高い非弁膜症性心房細動患者における、左心耳内血栓に起因する虚血性脳卒中および全身性塞栓症の発症抑制。			
医療技術名	体外設置型連続補助人工心臓システム「BR16010」を用いた重症 心不全患者に対する補助循環法	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 重症心不全患者を対象に体外設置型連続補助人工心臓システム「BR16010」を用いて補助循環療法を実施し、装着後30日間の安全性と有効性を評価する。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	56		ベーチェット病	9
2	筋萎縮性側索硬化症	57		特発性拡張型心筋症	423
3	脊髄性筋萎縮症	58		肥大型心筋症	92
4	原発性側索硬化症	59		拘束型心筋症	4
5	進行性核上性麻痺	4	60	再生不良性貧血	4
6	パーキンソン病	27	61	自己免疫性溶血性貧血	10
7	大脳皮質基底核変性症	1	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	
8	ハンチントン病		63	特発性血小板減少性紫斑病	14
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	
10	シャルコー・マリー・トゥース病		65	原発性免疫不全症候群	3
11	重症筋無力症	7	66	IgA 腎症	8
12	先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎	
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	5	68	黄色靱帯骨化症	
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー		69	後縦靱帯骨化症	2
15	封入体筋炎		70	広範脊柱管狭窄症	
16	クロウ・深瀬症候群		71	特発性大腿骨頭壊死症	1
17	多系統萎縮症	2	72	下垂体性ADH分泌異常症	
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	2	73	下垂体性TSH分泌亢進症	
19	ライソゾーム病		74	下垂体性PRL分泌亢進症	
20	副腎白質ジストロフィー		75	クッシング病	80
21	ミトコンドリア病	2	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	
22	もやもや病	166	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	
23	プリオン病		78	下垂体前葉機能低下症	
24	亜急性硬化性全脳炎		79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	26
25	進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症		81	先天性副腎皮質酵素欠損症	
27	特発性基底核石灰化症		82	先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス	1	83	アジソン病	9
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	60
30	遠位型ミオパチー		85	特発性間質性肺炎	1
31	ベスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	131
32	自己食空腔性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	1
33	シュワルツ・ヤンペル症候群		88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	244
34	神経線維腫症		89	リンパ脈管筋腫症	
35	天疱瘡		90	網膜色素変性症	2
36	表皮水疱症		91	バッド・キアリ症候群	4
37	膿疱性乾癬(汎発型)	1	92	特発性門脈圧亢進症	3
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	27
39	中毒性表皮壊死症	2	94	原発性硬化性胆管炎	2
40	高安動脈炎	40	95	自己免疫性肝炎	12
41	巨細胞性動脈炎		96	クローン病	1
42	結節性多発動脈炎	1	97	潰瘍性大腸炎	14
43	顕微鏡的多発血管炎	8	98	好酸球性消化管疾患	
44	多発血管炎性肉芽腫症	2	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	1	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	4	101	腸管神経節細胞減少症	
47	バージャー病	23	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	103	GFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	169	104	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	22	105	チャージ症候群	
51	全身性強皮症	8	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	28	107	全身型若年性特発性関節炎	
53	シェーグレン症候群	60	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人スチル病	1	109	非典型型溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎		110	フラウ症候群	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
111	先天性ミオパチー		161	家族性良性慢性天疱瘡	
112	マリネスコ・シェーグレン症候群		162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	1
113	筋ジストロフィー	3	163	特発性後天性全身性無汗症	
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164	眼皮膚白皮症	
115	遺伝性周期性四肢麻痺		165	肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎		166	弾性線維性仮性黄色腫	1
117	脊髄空洞症		167	マルファン症候群	52
118	脊髄髄膜瘤		168	エーラス・ダンロス症候群	1
119	アイザックス症候群		169	メンケス病	
120	遺伝性ジストニア		170	オクシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症	1	171	ウィルソン病	
122	脳表ヘモジデリン沈着症		172	低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症		173	VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症		174	那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症		175	ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群		176	コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症		177	有馬症候群	
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎		178	モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症		179	ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症		180	ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病		181	クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺		182	アペール症候群	
133	メビウス症候群		183	ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		184	アントレー・ピクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群		185	コフィン・シリス症候群	
136	片側巨脳症		186	ロスムンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成		187	歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症		188	多脾症候群	4
139	先天性大脳白質形成不全症		189	無脾症候群	
140	ドラベ症候群		190	鰓耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		191	ウェルナー症候群	
142	ミオクロニー欠伸てんかん		192	コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193	プラダー・ウィリ症候群	
144	レノックス・ガストー症候群		194	ソトス症候群	
145	ウエスト症候群		195	ヌーナン症候群	4
146	大田原症候群		196	ヤング・シンプソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症		197	1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		198	4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		199	5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎		201	アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群		202	スミス・マギニス症候群	
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎		203	22q11.2欠失症候群	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症		204	エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群		205	脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群		206	脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群		207	総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症		208	修正大血管転位症	11
159	色素性乾皮症		209	完全大血管転位症	3
160	先天性魚鱗癬		210	単心室症	8

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
211	左心低形成症候群		259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症	5	260	シトステロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		262	原発性高カイルミクロン血症	
215	ファロー四徴症	19	263	脳腫黄色腫症	
216	両大血管右室起始症	21	264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病	3	265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群		266	家族性地中海熱	
219	ギャロウェイ・モワト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎	22	268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎	6	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	1
222	一次性ネフローゼ症候群		270	慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎		271	強直性脊椎炎	1
224	紫斑病性腎炎		272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)		274	骨形成不全症	
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎		276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)		277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群		278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	1	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症	5	283	後天性赤芽球癆	
236	偽性副甲状腺機能低下症		284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンconi貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症		286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287	エプスタイン症候群	1
240	フェニルケトン尿症		288	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型		289	クロンカイト・カナダ症候群	
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸	
244	メーブルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症		293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症		294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性膀胱炎	
251	尿素サイクル異常症		299	嚢胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	26
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	
254	ポルフィリン症		302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシュャー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病		305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナバン病		319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	
308	進行性白質脳症		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
309	進行性ミオクローヌステんかん		321	非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群		322	β -ケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症	2	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症	2	324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症		325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症		326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症		327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
316	カルニチン回路異常症		328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症		329	無虹彩症	
318	シトリン欠損症		330	先天性気管狭窄症	
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料 一般病棟 7 : 1	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・救急医療管理加算	・小児入院医療管理料2 (5階東病棟のみプレイルーム加算あり)
・超急性期脳卒中加算	・後発医薬品使用体制加算
・妊産婦緊急搬送入院加算	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・診療録管理体制加算1	・新生児治療回復入院医療管理料
・医師事務作業補助体制加算1 (40 : 1)	
・急性期看護補助体制加算 50対1	・
・看護職員夜間12対1配置加算2	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・栄養サポートチーム加算 ※歯科医師連携加算あり	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1 (感染防止対策地域連携加算)	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・病棟薬剤業務実施加算1	・
・病棟薬剤業務実施加算2	・
・入退院支援加算1 注4・地域連携診療計画加算 有り	・
・認知症ケア加算2	・
・データ提出加算2	・
・特定集中治療室管理料1 (小児加算あり)	・
・特定集中治療室管理料3 (小児加算あり)	・
・ハイケアユニット入院医療管理料1	・
・新生児特定集中治療室管理料1	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓ペースメーカー指導管理料 (植込型除細動器移行期加算)	・画像診断管理加算2
・糖尿病合併症管理料	・ポジトロン断層撮影
・移植後患者指導管理料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・糖尿病透析予防指導管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・夜間休日救急搬送医学管理料 注3 救急搬送看護体制加算	・無菌製剤処理料
・外来リハビリテーション診療料	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・ニコチン依存症管理料	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅱ)	・廃用症候群リハビリテーション料(Ⅰ)
・薬剤管理指導料	・処置の休日加算1
・医療機器安全管理料1	・処置の時間外加算1
・医療機器安全管理料2	・処置の深夜加算1
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・一酸化窒素吸入療法
・診療情報提供料(Ⅰ)の注14に掲げる地域連携診療計画加算	・手術の休日加算1
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・手術の時間外加算1
・造血管腫瘍遺伝子検査	・手術の深夜加算1
・遺伝学的検査	・経皮的冠動脈形成術
・HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・経皮的冠動脈ステント留置術
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・経カテーテル大動脈弁置換術
・国際標準検査管理加算	・経皮的中隔心筋焼灼術
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・植込型心電図検査	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・時間内歩行試験	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・胎児心エコー法	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術
・ヘッドアップティルト試験	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極拔去術(レーザーシースを用いるもの)
・神経学的検査	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・胸腔鏡下弁置換術
・補助人工心臓	・経皮的僧帽弁クリップ術
・小児補助人工心臓	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・植込型補助人工心臓(非拍動流型)	・乳腺炎重症化予防・ケア指導料
・同種心移植術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・同種心肺移植術	・画像診断管理加算1
・経皮的動脈遮断術	・CAD/CAM冠
・医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6に掲げる手術	
・胎児胸腔・羊水腔シャント術	
・輸血管理料(Ⅰ)	
・凍結保存同種組織加算	
・麻酔管理料(Ⅰ)	
・麻酔管理料(Ⅱ)	
・病理診断管理加算2	
・排尿自立指導料	
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	
・遺伝カウンセリング加算	
・冠動脈CT撮影加算	
・心臓MRI撮影加算	
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	
・小児鎮静下MRI撮影加算	
・リードレスペースメーカー	
・人工腎臓	
・導入期加算	
・胸腔鏡下弁形成術	
・胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・凍結保存同種組織を用いた外科治療	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に1回程度
剖 検 の 状 況	剖検症例数 33 例 / 剖検率 17.7 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
電子カルテ情報をセマンティクス(意味・内容)の標準化により分析可能なデータに変換するための研究	宮本 恵宏	統合情報センター	15,306,000	補	厚生労働省科学研究費補助金
慢性期における脳卒中を含む循環器病診療の質の評価に関する研究	安田 聡	病院	10,000,000	補	厚生労働省科学研究費補助金
先天性心疾患を主体とする小児期発症の心血管難治性疾患の生涯にわたるQOL改善のための診療体制の構築と医療水準の向上に向けた総合的研究	白石 公	教育研修部	25,000,000	補	厚生労働省科学研究費補助金
原発性高脂血症に関する調査研究	斯波 真理子	病態代謝部	13,000,000	補	厚生労働省科学研究費補助金
地域における循環器疾患発症及び重症化予防に対する取組の推進のための研究	宮本 恵宏	統合情報センター	10,000,000	補	厚生労働省科学研究費補助金
生動物2光子温度・神経イメージングによる皮膚等末梢臓器の温度動態・感知機構の解明	神谷 厚範	循環動態制御部	3,800,000	補	科学研究費補助金
重力が駆動する新奇骨代謝メカニズムの解明	高野 晴子	細胞生物学部	2,200,000	補	科学研究費補助金
研究倫理の質向上、機能強化、支援促進のための共有・共通基盤の整備に関する研究	松井 健志	医学倫理研究室	8,800,000	補	科学研究費補助金
左右非対称形成の解明 —Hippoシグナルと新規調節因子の同定—	望月 直樹	副所長	8,500,000	補	科学研究費補助金
緊急～長期使用が可能な世界最小軽量ヘパリンフリーECMOシステムの開発と製品化	巽 英介	人工臓器部	10,500,000	補	科学研究費補助金
心不全治療を目的としたミオシン軽鎖リン酸化を調節する低分子化合物の開発と臨床応用	北風 政史	臨床研究部	14,600,000	補	科学研究費補助金
次世代型自家組織由来心臓弁グラフト(バイオバルブ)の開発研究	武輪 能明	人工臓器部	2,500,000	補	科学研究費補助金
バイファンクショナル分子によるポリ乳酸スキャホルド内部への組織浸潤誘導	山岡 哲二	生体医工学部	4,500,000	補	科学研究費補助金
間歇的低酸素時の肺マクロファージβ3受容体による肺循環調節での肺交感神経の役割	白井 幹康	心臓生理機能部	2,600,000	補	科学研究費補助金
都市部地域住民を対象とする潜在性心不全の実態とリスクスコア作成に関する疫学研究	小久保 喜弘	予防健診部	500,000	補	科学研究費補助金
炎症性シグナルと血管保護シグナルによる肺高血圧症発症の制御機構の解明	中岡 良和	血管生理学部	3,800,000	補	科学研究費補助金
消化管ペプチドによる新たな循環調節機構と多様な作用の解明	宮里 幹也	生化学部	3,800,000	補	科学研究費補助金
血管内皮Non-Coding RNAに着目した高血圧-認知症関連メカニズムの解明	林 真一郎	高血圧・腎臓科	3,900,000	補	科学研究費補助金
脳出血患者への低用量トリプル配合降圧薬の安全性と有効性を検討する国際無作為化試験	豊田 一則	脳血管内科部	4,200,000	補	科学研究費補助金
人工知能による自動薬物循環管理とシステム自律神経制御の開発・統合拡張と実用化	神谷 厚範	循環動態制御部	4,400,000	補	科学研究費補助金
鰓弓・側板中胚葉内の心臓前駆細胞発生を制御するエピジェネティック分子機構の解明	白井 学	創薬オミックス解析センター	5,000,000	補	科学研究費補助金
心血管形成・ヒト血管疾患に関与するシグナル伝達系の下流遺伝子群の意義	中川 修	分子生理部	5,400,000	補	科学研究費補助金

小計
22

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ソフトな分子間相互作用が造影メカニズムとなる微細血管用高分子MRIプローブ	馬原 淳	生体医工学部	5,000,000	補	科学研究費補助金
ナイジェリア、ケニアの脳卒中低減を目指した医科－歯科国際連携網の構築	猪原 匡史	脳神経内科部	5,000,000	補	科学研究費補助金
ノックインマウスを用いたヒト遺伝性心筋症の病態形成メカニズム解明と治療薬の検討	杜 成坤	心臓生理機能部	900,000	補	科学研究費補助金
血中ADAMTS13のクリアランス機構の解明	秋山 正志	分子病態部	1,200,000	補	科学研究費補助金
心筋分化過程における転写因子複合体と標的遺伝子の変化	渡邊 裕介	分子生理部	1,000,000	補	科学研究費補助金
地域一般集団と脳卒中症例の比較による終末糖化産物ペントシジンの医学的意義の検討	渡邊 至	予防健診部	500,000	補	科学研究費補助金
生活習慣・認知機能と血中脳由来神経栄養因子の関連－住民集団での断面・縦断的検討－	東山 綾	バイオバンク	500,000	補	科学研究費補助金
膵癌に特徴的な生体内切断で活性化される分泌・膜蛋白質を同定するペプチドミクス	佐々木 一樹	分子薬理部	1,100,000	補	科学研究費補助金
頭蓋内動脈解離の治療選択と臨床転帰に関する臨床的・凝血学的検討	古賀 政利	脳血管内科部	1,000,000	補	科学研究費補助金
脂肪萎縮症の病態解明から肥満症・メタボリックシンドロームの新規治療標的の探索	野口 倫生	バイオバンク	1,200,000	補	科学研究費補助金
GPR40－インクレチンシグナル系による新規の脂肪肝・脂質代謝異常改善機構の解明	富田 努	バイオバンク	900,000	補	科学研究費補助金
Rhoキナーゼを基軸とした新規食欲・脂肪蓄積制御因子の探索と機能解析	吉田 守克	生化学部	1,300,000	補	科学研究費補助金
血栓性リスクとなるプロテインS K196E異常症に関する研究	宮田 敏行	分子病態部	1,100,000	補	科学研究費補助金
オキシム誘導体ナノパーティクルによる心筋再生効果の検討	福嶋 五月	心臓外科部	800,000	補	科学研究費補助金
肺癌手術及び抗癌剤治療に対するANPを用いた新規併用治療法の確立	野尻 崇	生化学部	1,200,000	補	科学研究費補助金
脳動脈瘤病態形成進展に対するT細胞機能の検討	青木 友浩	分子薬理部	900,000	補	科学研究費補助金
急性ラクナ梗塞に対するPETとトラクトグラフィーを用いた新たな病態解明	横田 千晶	脳血管内科部	700,000	補	科学研究費補助金
稀少疾患の臨床試験のデザインと解析に関する統計的方法の研究	濱崎 俊光	データサイエンス部	900,000	補	科学研究費補助金
急性期脳梗塞再灌流療法に造影CT灌流画像を使用した安全性評価	井上 学	脳血管内科部	1,000,000	補	科学研究費補助金
緊急時に対応可能な血中自己抗体の簡易除去システムの創製	姜 貞勲	生体医工学部	900,000	補	科学研究費補助金
強度と分解速度を独立して広範囲に制御可能なシルクゲルの創出と心筋梗塞治療への応用	神戸 裕介	生体医工学部	1,600,000	補	科学研究費補助金
低酸素で致死的影響をもたらす小胞体関連分解(ERAD)機能不全に関する研究	小亀 浩市	分子病態部	1,300,000	補	科学研究費補助金
血管内皮細胞における血栓形成促進因子VWFの極性的分泌機構に関する研究	山崎 泰男	分子病態部	1,200,000	補	科学研究費補助金

小計
23

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
非哺乳類におけるグレリンの存在意義：胃腸管に対する作用と遺伝子改変動物の作出	海谷 啓之	生化学部	800,000	補	科学研究費補助金
血管形成における新規ALK1シグナル下流因子の分子生物学・生化学的解析	久光 隆	分子病態部	1,300,000	補	科学研究費補助金
GLP-1の心機能への影響=心磁図を用いた刺激伝導系での解析を中心に=	玉那覇 民子	動脈硬化・糖尿病内科	1,200,000	補	科学研究費補助金
血管新生・リモデリング過程での流れ刺激に対する内皮細胞応答の可視化と機能解析	中嶋 洋行	細胞生物学部	1,300,000	補	科学研究費補助金
PCSK9 の遺伝子変異及び分子型が生活習慣病に及ぼす影響とその制御機構の解明	堀 美香	病態代謝部	1,200,000	補	科学研究費補助金
患者特性に基づく脂質低下療法の費用対効果に関する研究	竹上 未紗	予防医学・疫学情報部	1,700,000	補	科学研究費補助金
新しい急性心不全治療戦略構築への基盤的研究－利尿薬反応性とバイオマーカーの応用－	吉原 史樹	高血圧・腎臓科	1,400,000	補	科学研究費補助金
急性期脳卒中および脳小血管病における認知機能低下に関する多施設追跡調査研究	三輪 佳織	脳血管内科部	3,800,000	補	科学研究費補助金
質量分析法による薬剤血中濃度測定をもとにしたテララメド抗凝固療法の確立	宮本 康二	不整脈科	1,400,000	補	科学研究費補助金
急性冠症候群レジストリ構築と東アジア人のリアルワールドデータ統合	安田 聡	副院長	1,100,000	補	科学研究費補助金
モデル動物と患者遺伝子検体の解析に基づく周産期心筋症の病態解明と革新的治療法開発	大谷 健太郎	再生医療部	1,200,000	補	科学研究費補助金
臨床実用化を目指した薬理的迷走神経刺激による新規心血管再生治療法の確立	李 梅花	循環動態制御部	1,100,000	補	科学研究費補助金
早期再分極症候群の病態解明および診断・予後指標に関する多角的な研究	鎌倉 令	不整脈科	900,000	補	科学研究費補助金
希少心筋疾患、2次性心筋症を基礎心疾患とする重症心不全診療基準の確立	瀬口 理	移植医療部	900,000	補	科学研究費補助金
PCSK9測定による家族性高コレステロール血症診断法・心リスク層別化法確立研究	片岡 有	冠疾患科	200,000	補	科学研究費補助金
医療ビッグデータを用いた急性心筋梗塞症の新規「医療の質指標(QI)」の開発	中尾 一泰	冠疾患科	1,100,000	補	科学研究費補助金
右心機能の正常化を目指した新しい肺高血圧症治療への探索的メカニズム研究	大郷 剛	肺高血圧症先端医学研究部	1,100,000	補	科学研究費補助金
高リスク冠動脈硬化巣を認識する多面的非侵襲的画像診断法確立のための基盤研究	浅海 泰栄	冠疾患科	1,200,000	補	科学研究費補助金
気管支上皮細胞のTrkBによる炎症性シグナルを介した肺高血圧症の病態機構の解明	岡澤 慎	血管生理学部	1,400,000	補	科学研究費補助金
心血管形態形成および病態における内皮分化制御の分子機構	岩田 裕子	分子生理部	1,100,000	補	科学研究費補助金
腎血管性高血圧への血行再建術の適応基準の確立と病態改善機序の解明	岩嶋 義雄	高血圧・腎臓科	1,300,000	補	科学研究費補助金
心臓ホルモンの生理作用を応用したメタボリックシンドロームの革新的治療法開発	徳留 健	生化学部	1,100,000	補	科学研究費補助金
ヘパリン起因性血小板減少症の免疫反応特異性解明とそれに基づく最適診断法の開発	宮田 茂樹	輸血管理室	1,100,000	補	科学研究費補助金

小計
23

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
フォンタン術後患者における高比重リポ蛋白(HDL)機能に関する臨床研究	大内 秀雄	小児循環器部	1,200,000	補	科学研究費補助金
血小板・血管内皮機能から見たVAD装着後の後天性VW病の病態解明に関する研究	水野 敏秀	人工臓器部	1,200,000	補	科学研究費補助金
骨代謝調節因子による肥満・エネルギー代謝調節の制御とその病態生理学的意義	日野 純	生化学部	800,000	補	科学研究費補助金
もやもや病に対する浅側頭動脈-中大脳動脈バイパス手術の脳血流変化と術後合併症	吉谷 健司	手術部	600,000	補	科学研究費補助金
新しい非侵襲モニターによる心臓再同期療法の遠隔期予後の予測	前田 琢磨	輸血管理室	900,000	補	科学研究費補助金
心虚血・再灌流時のセロトニン動態への薬理学的介入による心筋細胞傷害軽減の検討	秋山 剛	心臓生理機能部	800,000	補	科学研究費補助金
研究用バイオバンクにおける周産期試料と医療情報の集積・利用に関するELSIの検討	遠矢 和希	医学倫理研究室	1,000,000	補	科学研究費補助金
抑うつに対する音の両側性刺激の効果の基礎的研究	山内 美穂	脳神経内科	1,200,000	補	科学研究費補助金
カルシウムシグナルを介した内皮機能・血管形成制御機構の研究	西谷 友重	分子生理部	1,700,000	補	科学研究費補助金
ANPの組織繊維化抑制作用の機序解明と肺線維症治療への応用	三浦 浩一	生化学部	1,400,000	補	科学研究費補助金
疾患特異的iPS細胞のゲノム編集・アクチン再構成による遺伝性脳小血管病の治療開発	山本 由美	再生医療部	1,400,000	補	科学研究費補助金
カテコラミン感受性多型生心室頻拍の効率的な診断・治療法の確立	大野 聖子	分子生物学部	1,300,000	補	科学研究費補助金
急性心不全のBNP前駆体プロセッシング亢進による新しい代償機構の検証とその臨床応用	高濱 博幸	心臓血管内科部 心不全科	1,300,000	補	科学研究費補助金
虚血性心不全モデルにおける飲水行動制御と薬理的迷走神経刺激の併用治療効果の検討	鄭 燦	循環動態制御部	1,200,000	補	科学研究費補助金
心臓サルコイドーシスに対する抗菌薬治療の炎症進展抑制効果を検討する探索的研究	草野 研吾	心臓血管内科部 不整脈科	1,200,000	補	科学研究費補助金
心臓サルコイドーシスに対する抗菌薬治療の炎症進展抑制効果を検討する探索的研究	服部 哲久	分子生物学部	1,100,000	補	科学研究費補助金
移植心冠動脈硬化症に対するPCSK9阻害剤の安全性および有効性評価	黒田 健輔	移植医療部	1,300,000	補	科学研究費補助金
家族性高コレステロール血症の残余リスク制圧:HDLを悪玉化させる原因脂質の探索	小倉 正恒	病態代謝部	1,500,000	補	科学研究費補助金
MRIと分子イメージングに基づく動脈硬化の定量的診断と新しい予防戦略の構築	野口 暉夫	冠疾患科	1,400,000	補	科学研究費補助金
周産期心筋症の早期診断のためのバイオマーカー検査確立研究	神谷 千津子	周産期・婦人科部	900,000	補	科学研究費補助金
新規生理活性ペプチドNURPが担う新しい生体制御機構の解明	森 健二	生化学部	1,000,000	補	科学研究費補助金
OSTNが仲介する骨膜依存的な海綿骨形成機構の解明	高野 晴子	細胞生物学部	1,300,000	補	科学研究費補助金
妊娠関連血栓性疾患の原因究明と治療法の確立を目指した研究	根木 玲子	ゲノム医療支援部	1,400,000	補	科学研究費補助金

小計
23

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
弱者を対象とする医学系研究に求められる倫理的配慮に関する研究	川崎 唯史	医学倫理研究室	1,300,000	補	科学研究費補助金
看護研究の倫理に関する研究倫理的側面からの分析調査と教育プログラムの作成	土井 香	医学倫理研究室	900,000	補	科学研究費補助金
運動が糖尿病性微小血管障害を改善するメカニズムの解明	曾野部 崇	心臓生理機能部	2,000,000	補	科学研究費補助金
ニューラルネットワークを用いたPET分子イメージングの新しい薬物動態解析	越野 一博	画像診断医学部	1,000,000	補	科学研究費補助金
ストレスフリーなウェアラブル指向型全血行動態モニターと循環管理システムの統合開発	上村 和紀	循環動態制御部	1,400,000	補	科学研究費補助金
都市部地域住民を対象とする頸動脈硬化症予防診断のためのリスクスコアに関する研究	小久保 喜弘	予防健診部	1,600,000	補	科学研究費補助金
医療ビッグデータと人工知能を用いた新次元的应用による心筋梗塞発症予測	中尾 葉子	予防医学・疫学情報部	2,200,000	補	科学研究費補助金
冠動脈血栓症の病態解明と予防法の確立	大塚 文之	バイオバンク	800,000	補	科学研究費補助金
冠動脈血栓症の病態解明と予防法の確立	加藤 愛章	小児循環器部	1,068,627	補	科学研究費補助金
“位相差画像”を用いたCT画像ノイズ低減法の臨床応用への実証研究	西井 達矢	放射線部	900,000	補	科学研究費補助金
近赤外線分光法を用いた定量的脳血流量によるくも膜下出血後脳血管攣縮の評価	加藤 真也	手術部	500,000	補	科学研究費補助金
脳血管を標的としたTauopathyに対する新規治療薬の開発	齊藤 聡	脳神経内科	1,500,000	補	科学研究費補助金
炎症による内皮機能障害を背景とする肺高血圧病態の解明と治療法の開発	稲垣 薫克	血管生理学部	1,400,000	補	科学研究費補助金
エピゲノム情報を用いた拡張型心筋症と拡張相肥大型心筋症の鑑別法に関する研究	錦織 充広	オミックスセンター	1,600,000	補	科学研究費補助金
肥満におけるC型ナトリウム利尿ペプチド(CNP)の病態生理学的意義の解明	ベ チョロン	生化学部	1,600,000	補	科学研究費補助金
造血制御における転写因子KLF2の役割の解明	石橋 知彦	血管生理学部	1,600,000	補	科学研究費補助金
アンチセンス薬の腎毒性を回避する新規設計法の構築	和田 郁人	病態代謝部	1,400,000	補	科学研究費補助金
心不全心房における心房性ナトリウム利尿ペプチドの異常分子型産生機序の解明	松尾 文香	創薬オミックス解析センター	1,600,000	補	科学研究費補助金
血管内皮細胞の成熟におけるエピジェネティック制御の研究	田中 亨	分子生理部	2,200,000	補	科学研究費補助金
成体心筋細胞でのWNT/ β カテニンシグナル活性化意義の解明	千葉 彩乃	細胞生物学部	1,500,000	補	科学研究費補助金
Brugada症候群における遺伝子多型が心イベントに与える影響	山形 研一郎	心臓血管内科 不整脈科	2,400,000	補	科学研究費補助金
高精度持続皮下測定での血糖変動と左室拡張障害の関連の検討—心筋微小循環での意義—	椋谷 真由	動脈硬化・糖尿病科	700,000	補	科学研究費補助金
アミロイドPETによる高齢者心不全の病態解明と心脳連関の探究	立石 恵実	放射線部	1,100,000	補	科学研究費補助金

小計
23

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
HFpEFを伴う肺高血圧におけるRho-kinaseの役割を 探る	金 慧玲	心臓生理機能 部	1,500,000	補	科学研究費補助金
虚血性心臓病の病態生理を考慮した高精度・非侵襲 的な発症リスク評価法の確立研究	細田 勇人	心臓血管内科	600,000	補	科学研究費補助金
Mtus1遺伝子による 心肥大抑制機構の解明とその臨 床応用	伊藤 慎	臨床研究部	1,200,000	補	科学研究費補助金
マルファン症候群およびその類縁動脈疾患の病態と 遺伝基盤の解明および治療法の確立	柳生 剛	心臓血管内科 部 血管科	600,000	補	科学研究費補助金
体水分貯留、分布の性差、加齢変化のメカニズムの 解明と心不全発症予測因子の開発	長谷川 拓也	心臓血管内科 部 心不全科	1,700,000	補	科学研究費補助金
膠原病性肺高血圧症における炎症・組織リモデリン グの解明に向けた免疫組織学的検討	大郷 恵子	病理部	1,400,000	補	科学研究費補助金
RNA結合タンパク質Arid5aの肺高血圧症病態にお ける役割の解明	森 啓悦	血管生理学部	1,600,000	補	科学研究費補助金
下肢動脈バイパスに応用可能な小口径再生型ロング 人工血管の開発	古越 真耶	人工臓器部	1,300,000	補	科学研究費補助金
幼齢期心臓支配神経への選択的操作に伴う成熟期心 筋における病態形成の解明	羽山 陽介	循環動態制御 部	1,400,000	補	科学研究費補助金
脳保護作用を有する各種アミノ酸の探索	大和 恵子	分子病態部	1,200,000	補	科学研究費補助金
透析患者心臓関連死における大動脈弁と刺激伝導系 の組織学的意義の構築	岸田 真嗣	高血圧・腎臓 部	1,900,000	補	科学研究費補助金
新たなリハビリテーション法の確立に向けた表面筋電 図を用いた下肢機能解析	鎌田 将星	循環器病リハ ビリテーション 部	2,400,000	補	科学研究費補助金
市町村が収集・蓄積しているデータベース活用によ る、認知機能低下の予測モデル構築	尾形 宗士郎	統合情報セン ター	1,000,000	補	科学研究費補助金
カルシウム拮抗薬を基盤とした心臓PET画像診断技 術の開発	平野 満	画像診断医学 部	1,000,000	補	科学研究費補助金
ALK1下流遺伝子TMEM100の新規転写制御機構と血 管形態形成における意義	劉 孟佳	分子生理部	1,200,000	補	科学研究費補助金
孤発性ラクナ梗塞患者におけるNOTCH3遺伝子変異 の解析	鷺田 和夫	脳神経内科部	1,200,000	補	科学研究費補助金
心疾患患者に対する早期離床、日常生活動作改善を 目指したリハビリテーション法の開発	山本 壱弥	循環器病リハ ビリテーション 部	1,200,000	補	科学研究費補助金
赤血球の変化と鉄欠乏が循環器疾患に与える影響の 解析	丸山 慶子	分子病態部	1,000,000	補	科学研究費補助金
心臓分子イメージング国際共同研究による心不全個 別化医療戦略の構築	樋口 隆弘	画像診断医学 部	17,600,000	補	科学研究費補助金
DNAエンコードライブラリーを用いた精子膜タンパク 質を標的とした男性避妊薬の開発(国際共同研究 強化)	藤原 祥高	分子生物学部	5,062,794	補	科学研究費補助金
国産医療機器創出基盤整備等事業	赤川 英毅	知的資産部	8,700,000	補	日本医療研究開発機構
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)	小川 久雄	理事長	15,652,100	補	(研)科学技術振興機構
産業データ共有促進事業費補助金	富田 努	バイオバン ク	5,000,000	補	環境共創イニシアチブ

小計
23

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
新たな臓器保護材の開発に向けたATP産生制御の構造生命科学／臓器機能とATP産生制御機構の相関解析	北風 政史	研究開発基盤センター	1,300,000	委	(研)科学技術振興機構
単一細胞プロテオミクスが拓く細胞証分析	若林 真樹	創薬オミックスセンター	10,465,000	委	(研)科学技術振興機構
細胞の三次元配置技術に基づいた小口径脱細胞血管等組織再生材料の創成	山岡 哲二	生体医工学部	58,689,000	委	日本医療研究開発機構
マテリアル光科学の創成を基盤とする超バイオ機能表面構築技術の開拓	山岡 哲二	生体医工学部	5,980,000	委	日本医療研究開発機構
心臓・骨・腎臓ネットワーク機構とこれを支える血管恒常性メカニズムの解明	望月 直樹	研究所長	33,280,000	委	日本医療研究開発機構
小児心臓移植後の移植後リンパ球増殖性疾患の診断及び治療法の開発に関する臨床的研究	福嶋 教偉	移植医療部	85,000,000	委	日本医療研究開発機構
自律神経・ペプチド連関を基軸とするエネルギー代謝と免疫制御機構の解明	宮里 幹也	生化学部	5,850,000	委	日本医療研究開発機構
脳卒中後てんかんの急性期診断・予防・治療指針の策定	猪原 匡史	脳神経外科	13,390,000	委	日本医療研究開発機構
脳卒中研究者新ネットワークを活用した脳・心血管疾患における抗血栓療法の実態と安全性の解明	豊田 一則	副院長	13,390,000	委	日本医療研究開発機構
非小細胞肺癌手術適応症例に対する周術期hANP 投与の多施設共同ランダム化第Ⅱ相比較試験	寒川 賢治	研究所	29,571,072	委	日本医療研究開発機構
圧反射求心生神経のメカノバイオロジー機構の解明と、神経操作医療の試作	神谷 厚範	循環動態制御部	8,927,724	委	日本医療研究開発機構
成人先天性心疾患の長期予後の視点に基づいた介入のあり方に関する研究	安田 聡	副院長	9,880,000	委	日本医療研究開発機構
車中泊・避難所でのエコノミークラス症候群に対する災害時スクリーニング技術の開発	小川 久雄	理事長	5,500,000	委	日本医療研究開発機構
新しい心不全改善薬の探索ークオリファイドヒット化合物の選択	北風 政史	研究開発基盤センター	10,446,117	委	日本医療研究開発機構
研究倫理教育に関するモデル教材・プログラムの開発	松井 健志	研究開発基盤センター	29,770,000	委	日本医療研究開発機構
女性の冠動脈疾患診断およびリスク層別化における、冠動脈CTの多面的解剖学的指標および新規機能的指標の意義と費用効果分析	中尾 葉子	研究開発基盤センター	10,000,000	委	日本医療研究開発機構
血管のメカノバイオロジー:血流センシングと脳動脈瘤形成の分子機構	青木 友浩	分子薬理部	13,000,000	委	日本医療研究開発機構
医師主導型臨床研究による心腎連関からみた心不全の新しい治療薬の開発	北風 政史	研究開発基盤センター	7,540,000	委	日本医療研究開発機構
発症時刻不明の急性期脳梗塞に対する適正な血栓溶解療法の推進を目指す研究	豊田 一則	副院長	15,000,000	委	日本医療研究開発機構
心血管イベント一次予防を目的としたMRIを用いた非侵襲的冠動脈ハイリスクプラーク診断法の臨床的有効性の検証	野口 暉夫	心臓血管内科	21,480,000	委	日本医療研究開発機構
周産期心筋症の臨床研究(オミックス・生化学解析)ー基礎研究(モデル動物)融合による世界初早期診断マーカー・治療法開発研究	神谷 千津子	周産期・婦人科部	13,000,000	委	日本医療研究開発機構
特発性血栓症患者のゲノム情報を用いた層別化による病態解明研究	辻 明宏	心臓血管内科	13,000,000	委	日本医療研究開発機構
全国的レジストリーによる脳卒中および循環器疾患の実態把握の確立と両疾患合併症に関する包括的診療実態解明に関する研究	小川 久雄	理事長	15,000,000	委	日本医療研究開発機構

小計
23

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
分子イメージングを利用した移植幹細胞の時間・空間的追跡法の開発	大谷 健太郎	再生医療部	1,950,000	委	日本医療研究開発機構
Targeting age associated white matter lesions(加齢性大脳白質病変の決定因子の解明)	猪原 匡史	脳神経外科	7,436,000	委	日本医療研究開発機構
慢性血栓閉塞性肺高血圧症(CTEPH)に対するballoon pulmonary angioplasty(BPA)の有効性と安全性に関する多施設レジストリー研究	小川 久雄	理事長	8,319,999	委	日本医療研究開発機構
急性期脳梗塞へのアドレノメデュリンの有効性と安全性を探索する医師主導治験に向けた基盤データの収集	齊藤 聡	脳神経内科	9,999,756	委	日本医療研究開発機構
RYR2 遺伝子異常に起因するカテコラミン誘発性多形性心室頻拍等の遺伝性不整脈の原因解明/(分担)患者由来iPS由来心筋細胞樹立・解析	大野 聖子	分子生物学部	13,000,000	委	日本医療研究開発機構
未破裂脳動脈瘤のリスク評価を目指すマクロファージイメージング用新規MRI造影剤の開発	青木 友浩	分子薬理部	5,980,000	委	日本医療研究開発機構
持続血糖モニタリング(FGM/CGM)の血糖管理における精度・有用性の検証及び健康寿命促進のための血糖変動指標の探索	細田 公則	動脈硬化・糖尿病内科	17,940,000	委	日本医療研究開発機構
循環器疾患領域における多剤併用(polypharmacy)の実態とその問題把握に関する研究	安田 聡	副院長	6,500,000	委	日本医療研究開発機構
急性期虚血性脳血管障害の非侵襲的画像診断指針の提案	古賀 政利	脳血管内科部	6,500,000	委	日本医療研究開発機構
Interleukin-21を標的とした肺動脈性肺高血圧症の革新的治療法の開発	中岡 良和	血管生理学部	32,236,282	委	日本医療研究開発機構
NASHの新規治療法の探索研究	日野 純	生化学部	7,439,960	委	日本医療研究開発機構
脳動脈瘤治療薬の探索	青木 友浩	分子薬理部	4,345,000	委	日本医療研究開発機構
糖尿病に起因する心筋拡張障害発症機序および運動による予防効果の解明	ピアソン ジェームズ	心臓整理部	6,500,000	委	日本医療研究開発機構
京都大学大学院における臨床統計家育成のための教育カリキュラムの標準化のための研究開発	濱崎 俊光	研究開発基盤センター	24,500,000	委	日本医療研究開発機構
ヒトiPS分化細胞技術を応用した医薬品の心毒性評価法の開発と国際標準化に関する研究	細田 洋司	再生医療部	1,300,000	委	日本医療研究開発機構

小計
15

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

合計
175

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭者名の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Nakamura Y	予防健診部医師	Comparison of Long-Term Mortality in Patients With Previous Coronary Artery Bypass Grafting Who Underwent Percutaneous Coronary Intervention With Versus Without Optimal Medical Therapy	American Journal of Cardiology. 2018 Jul; 122: 206-212	Original Article
2	Yoshihara F	腎臓・高血圧内科部長	An Exploratory Study of Dapagliflozin for the Attenuation of Albuminuria in Patients with Heart Failure and Type 2 Diabetes Mellitus (DAPPER)	Cardiovascular Drugs and Therapy. 2018 Apr; 32: 183-190	Original Article
3	Ueda J	肺循環科医師	Beneficial Effect of Endovascular Treatment on Villalta Score in Japanese Patients With Chronic Iliofemoral Venous Thrombosis and Post-Thrombotic Syndrome	Circulation Journal. 2018 Sep; 82: 2640-2646	Original Article
4	Marume K	不整脈科医師	Mortality and Sudden Cardiac Death Risk Stratification Using the Noninvasive Combination of Wide QRS Duration and Late Gadolinium Enhancement in Idiopathic Dilated Cardiomyopathy	Circulation: Arrhythmia and Electrophysiology. 2018 Apr; 11: e006233	Original Article
5	Matsumoto M	臨床病理科医師	Clinical determinants of successful weaning from extracorporeal membrane oxygenation in patients with fulminant myocarditis	ESC Heart Failure. 2018 Aug; 5: 675-684	Original Article
6	Kuyama N	心臓血管内科医師	Left ventricular myxoma with Carney complex	ESC Heart Failure. 2018 Aug; 5: 713-715	Original Article

7	Inoue YY	不整脈科医師	Different responses to exercise between Andersen-Tawil syndrome and catecholaminergic polymorphic ventricular tachycardia	Europace. 2018 Oct; 20: 1675-1682	Original Article
8	Nakao YM	レジストリ推進室長	Sex differences in impact of coronary artery calcification to predict coronary artery disease	Heart. 2018 Jul; 104: 1118-1124	Original Article
9	Suzuki Y	冠疾患科医師	Predictors of improvements in exercise capacity during cardiac rehabilitation in the recovery phase after coronary artery bypass graft surgery versus acute myocardial infarction	Heart and Vessels. 2018 Apr; 33: 358-366	Original Article
10	Okada A	心不全科医師	Increased serum Wisteria floribunda agglutinin positive Mac-2 binding protein (Mac-2 binding protein glycosylation isomer) in chronic heart failure: a pilot study	Heart and Vessels. 2018 Apr; 33: 385-392	Original Article
11	Okada A	心不全科医師	Successful Treatment of Mitral Regurgitation after Transapical Transcatheter Aortic Valve Implantation by Percutaneous Edge-to-edge Mitral Valve Repair (MitraClip [®])—The First Combination Therapy Performed in Japan—	Internal Medicine. 2018 Apr; 57: 1105-1109	Original Article
12	Harnatani Y	心不全科医師	Mitral Regurgitation and Heart Failure as the First Presentation in a Patient with Features of Two Connective Tissue Disorders: A Rare Combination of Mucopolysaccharidosis and Osteogenesis Imperfecta?	Internal Medicine. 2018 Aug; 57: 2209-2215	Original Article
13	Aoyama D	心不全科医師	Peripartum Serial Echocardiographic Findings in a Patient with Life-threatening Peripartum Cardiomyopathy	Internal Medicine. 2018 Nov; 57: 3105-3109	Original Article

14	Konagai N	小児循環器内科 医師	Successful Transcatheter Atrial Septal Defect Closure Prior to Coronary Artery Bypass Grafting Using Anti-Congestive Therapies and Intraaortic Balloon Pumping in a Patient with Severe Ischemic Cardiomyopathy and Triple-Vessel Coronary Artery Disease	International Heart Journal. 2018 Nov; 59: 1480-1484	Original Article
15	Takahama H	心不全科医師	Ratio of pro-B-type natriuretic peptide (BNP) to total BNP is decreased in mild, but not severe, acute decompensated heart failure patients: A novel compensatory mechanism for acute heart failure	International Journal of Cardiology. 2018 May; 258: 165-171	Original Article
16	Nakano H	不整脈科医師	Impact of iron deficiency on long-term clinical outcomes of hospitalized patients with heart failure	International Journal of Cardiology. 2018 Jun; 261: 114-118	Original Article
17	Yasuda S	副院長	Atrial fibrillation and ischemic events with rivaroxaban in patients with stable coronary artery disease (AFIRE): Protocol for a multicenter, prospective, randomized, open-label, parallel group study	International Journal of Cardiology. 2018 Aug; 265: 108-112	Original Article
18	Kaichi R	冠疾患科医師	Erupted Coronary Atheroma: Insights from Multi-modality Imaging	International Journal of Cardiovascular Imaging. 2018 Oct; 34: 1669-1671	Original Article
19	Tokuda N	脳血管内科医師	Urgent Detection of Acute Type A Aortic Dissection in Hyperacute Ischemic Stroke or Transient Ischemic Attack	Journal of Stroke & Cerebrovascular Diseases. 2018 Aug; 27: 2112-2117	Original Article
20	Shiba M	心不全科医師	Presence of increased inflammatory infiltrates accompanied by activated dendritic cells in the left atrium in rheumatic heart disease	PLOS ONE. 2018 Sep; 13: e0203756	Original Article

21	Hamatani Y	不整脈科医師	Elevated Plasma D-Dimer Level Is Associated With Short-Term Risk of Ischemic Stroke in Patients With Acute Heart Failure	Stroke. 2018 Jul; 49: 1737-1740	Original Article
22	Koga M	臨床病理科医師	Systemic cardiovascular inflammation associated with autoimmune disease	Vascular Medicine. 2018 Aug; 23: 407-408	Original Article
23	Nakagawa S	心臓血管内科医師	Validation of the 2014 European Society of Cardiology Sudden Cardiac Death Risk Prediction Model Among Various Phenotypes in Japanese Patients With Hypertrophic Cardiomyopathy	American Journal of Cardiology. 2018 Dec; 122: 1939-1946	Original Article
24	Takahama H	心不全科医師	Rationale and Design of the Multicenter Trial on Japan Working Group on the Effects of Angiotensin Receptor Blockers Selection (Azilsartan vs. Candesartan) on Diastolic Function in the Patients Suffering from Heart Failure with Preserved Ejection Fraction: J-TASTE Trial	Cardiovascular Drugs and Therapy. 2018 Aug; 32: 381-388	Original Article
25	Nakamura K	肺循環科医師	Crucial role of RAGE in inappropriate increase of smooth muscle cells from patients with pulmonary arterial hypertension	PLOS ONE. 2018 Sep; 13: e0203046	Original Article
26	Fukuma K	脳神経内科医師	The Clinical Implication of Transcranial Doppler Detection of Microembolic Signals in Patients with Heartmate II	Asaio Journal. 2018 Sep/Oct; 64: 694-696	Original Article

27	Fukushima N	移植医療部長	Assessment of Safety and Effectiveness of the Extracorporeal Continuous-Flow Ventricular Assist Device (BR16010) Use as a Bridge-to-Decision Therapy for Severe Heart Failure or Refractory Cardiogenic Shock: Study Protocol for Single-Arm Non-randomized, Uncontrolled, and Investigator-Initiated Clinical Trial	Cardiovascular Drugs and Therapy. 2018 Aug; 32: 373-379	Original Article
28	Tadokoro N	心臓外科医師	Trifecta vs. Magna for Aortic Valve Replacement – Differences in Clinical Outcome and Valve Hemodynamics –	Circulation Journal. 2018 Oct; 82: 2767-2775	Original Article
29	Kimura Y	薬剤師	Impact of Coronary Artery Calcification in the Donor Heart on Transmitted Coronary Artery Disease in Heart Transplant Recipients	Circulation Journal. 2018 Nov; 82: 3021-3028	Original Article
30	Yamashita K	心臓外科医師	Transcatheter Aortic Valve Replacement for Severe Aortic Stenosis Complicated by Sigmoid Septum	Circulation Journal. 2018 Nov; 82: 3090-3099	Original Article
31	Kawamoto N	心臓外科医師	Functional mitral stenosis after mitral valve repair for Type II dysfunction: determinants and impacts on long-term outcome	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery. 2018 Sep; 54: 453-459	Original Article
32	Kume Y	心臓外科医師	Intracranial mycotic aneurysm is associated with cerebral bleeding post-valve surgery for infective endocarditis	Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery. 2018 Nov; 27: 635-641	Original Article

33	Hata H	臨床病理科医師	Impact of mitral valve intervention with left ventricular assist device implantation on postoperative outcomes and morphologic change	Journal of Artificial Organs. 2018 Jun; 21: 164-171	Original Article
34	Toya T	心臓外科医師	Efficacy of regional saturation of oxygen monitor using near-infrared spectroscopy for lower limb ischemia during minimally invasive cardiac surgery	Journal of Artificial Organs. 2018 Dec; 21: 420-426	Case report
35	Kawamoto N	心臓外科医師	Late onset of atrial fibrillation in patients undergoing mitral valve repair for type II dysfunction	Journal of Cardiology. 2018 Apr; 71: 346-351	Original Article
36	Wakamiya A	心臓血管内科医師	Paradoxical Reaction of Tuberculosis in a Heart Transplant Recipient During Antituberculosis Therapy: A Case Report	Transplantation Proceedings. 2018 Apr; 50: 947-949	Original Article
37	Seguchi O	薬剤師	Clinical Outcomes of Patients With the HeartMate II Left Ventricular Assist Device: A Single-center Experience From Japan	Transplantation Proceedings. 2018 Nov; 50: 2726-2732	Original Article
38	Iwasaki K	移植対策室医師	Terminal Ileac Ulcers Mimicked Post-transplantation Lymphoproliferative Disorder in a Heart Recipient Treated With Everolimus: A Case Report	Transplantation Proceedings. 2018 Dec; 50: 4053-4056	Original Article
39	Yamaguchi Y	脳血管内科医師	Early Achievement of Blood Pressure Lowering and Hematoma Growth in Acute Intracerebral Hemorrhage: Stroke Acute Management with Urgent Risk-Factor Assessment and Improvement-Intracerebral Hemorrhage Study	Cerebrovascular Diseases. 2018 Sep; 46: 116-122	Original Article

40	Toyoda K	副院長	Seasonal Variations in Neurological Severity and Outcomes of Ischemic – 5-Year Single-Center Observational Study –	Circulation Journal. 2018 Apr; 82: 1443–1450	Original Article
41	Yoshimura S	脳血管内科医長	Two-Year Outcomes of Anticoagulation for Acute Ischemic Stroke With Nonvalvular Atrial Fibrillation – SAMURAI-NVAF Study –	Circulation Journal. 2018 Jun; 82: 1935–1942	Original Article
42	Wada S	脳神経内科医師	Anti-Xa Activity and Event Risk in Patients With Direct Factor Xa Inhibitors Initiated Early After Stroke	Circulation Journal. 2018 Oct; 82: 2872–2879	Original Article
43	Nakaoku Y	脳神経内科医師	Montreal Cognitive Assessment score correlates with regional cerebral blood flow in post-stroke patients	Clinical Neurology and Neurosurgery. 2018 Nov; 174: 68–74	Original Article
44	Iguchi S	脳神経外科医師	System evaluation of automated production and inhalation of ¹⁵ O-labeled gaseous radiopharmaceuticals for the rapid ¹⁵ O-oxygen PET examinations	EJNMMI Physics. 2018 Dec; 5: 37	Original Article
45	Wada S	脳血管内科医師	Factors Associated with Intima-Media Complex Thickness of the Common Carotid Artery in Japanese Noncardioembolic Stroke Patients with Hyperlipidemia: The J-STARS Echo Study	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis. 2018 Apr; 25: 359–373	Original Article
46	Arimizu T	脳血管内科医師	Improving Call-to-Door Time Using School-Based Intervention by Emergency Medical Technicians: The Akashi Project	Journal of Stroke & Cerebrovascular Diseases. 2018 Jun; 27: 1552–1555	Original Article

47	Tanaka K	脳血管内科医師	Comparison of Clinical Characteristics among Subtypes of Visual Symptoms in Patients with Transient Ischemic Attack: Analysis of the PROspective Multicenter registry to Identify Subsequent cardiovascular Events after TIA (PROMISE-TIA) Registry	Journal of Stroke & Cerebrovascular Diseases. 2018 Jun; 27: 1711–1716	Original Article
48	Hino T	脳血管内科医師	Spreading Awareness of Stroke through School-Based Education: A Pooled Analysis of Three Community-Based Studies	Journal of Stroke & Cerebrovascular Diseases. 2018 Jul; 27: 1810–1814	Original Article
49	Wada S	動脈硬化・糖尿病内科	Outcome Prediction in Acute Stroke Patients by Continuous Glucose Monitoring	Journal of the American Heart Association. 2018 Apr; 7 :e008744	Original Article
50	Matsubara S	糖尿病・脂質代謝内科医師	Cerebrovascular imaging of cerebral ischemia in acute type A aortic dissection	Journal of the Neurological Sciences. 2018 May; 388: 23–27	Original Article
51	Yoshimura S	脳血管内科医長	NIHSS cut point for predicting outcome in supra- vs infratentorial acute ischemic stroke	Neurology. 2018 Oct; 91: e1695–e1701	Original Article
52	Matsubara S	糖尿病・脂質代謝内科医師	Nonconvulsive Status Epilepticus in Acute Intracerebral Hemorrhage	Stroke. 2018 Jul; 49: 1759–1761	Original Article
53	Ishihara T	脳血管内科医師	Significance of Nonfocal Symptoms in Patients With Transient Ischemic Attack: The PROMISE-TIA Study	Stroke. 2018 Aug; 49: 1893–1898	Original Article
54	Miyoshi T	周産期・婦人科医長	Amniotic Fluid Natriuretic Peptide Levels in Fetuses With Congenital Heart Defects or Arrhythmias	Circulation Journal. 2018 Sep; 82: 2619–2626	Original Article
55	Higashida A	小児心臓外科医師	Application of hybrid Stage I palliation for patients with two ventricular cavities and hypoplastic left heart structures	Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery. 2018 Jun; 26: 906–911	Original Article

56	Hoashi T	小児心臓外科医 長	Utility of a super-flexible three-dimensional printed heart model in congenital heart surgery	Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery. 2018 Nov; 27: 749-755	Original Article
57	Ueda K	小児循環器科医 師	The impact of intrauterine treatment on fetal tachycardia: a nationwide survey in Japan	Journal of Maternal-Fetal & Neonatal Medicine. 2018 Oct; 31: 2605-2610	Original Article
58	Ono S	小児循環器科医 師	Comparison of Clinical Profiles in Patients with Protein-Losing Enteropathy With and Without Fontan Circulation	Pediatric Cardiology. 2018 Oct; 39: 1290-1298	Original Article
59	Miyoshi T	周産期・婦人科 医師	Plasma natriuretic peptide levels in fetuses with congenital heart defect and/or arrhythmia	Ultrasound in Obstetrics & Gynecology. 2018 Nov; 52: 609-616	Original Article
60	Higashida A	小児心臓外科医 師	Neonatal repair of left atrial diverticulum with gigantic thrombus without cardiopulmonary bypass	General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2018 Apr; 66: 232-234	Case report
61	Ueda Y	周産期・婦人科 医師	Cardiomyopathy Phenotypes and Pregnancy Outcomes with Left Ventricular Noncompaction Cardiomyopathy Three Cases and a Literature Review	International Heart Journal. 2018 Nov; 59: 862-867	Original Article
62	Kokubo Y	健康診査室医長	Dietary magnesium intake and risk of incident coronary heart disease in men: A prospective cohort study	Clinical Nutrition. 2018 Oct; 37: 1602-1608	Original Article
63	Kokubo Y	健康診査室医長	Impact of Intima-Media Thickness Progression in the Common Carotid Arteries on the Risk of Incident Cardiovascular Disease in the Suita Study	Journal of the American Heart Association. 2018 Jun; 7: e007720	Original Article
64	Maeda T	麻酔科医長	Accuracy and trending ability of the fourth-generation FloTrac/Vigileo System TM in patients undergoing abdominal aortic aneurysm surgery	Journal of Anesthesia. 2018 32: 387-393	Original Article

65	Maeda T	麻酔科医長	Evaluating the Effect on Mortality of a No- Tranexamic acid (TXA) Policy for Cardiovascular Surgery	Journal of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia. 2018 Aug; 32: 1627-1634	Original Article
66	Maeda T	麻酔科医長	Safety of Tranexamic Acid During Pediatric Trauma: A Nationwide Database Study*	Pediatric Critical Care Medicine. 2018 Dec; 19: e637-e642	Original Article
67	Tsukinaga A	麻酔科医師	Relationship between fresh frozen plasma to packed red blood cell transfusion ratio and mortality in cardiovascular surgery	Journal of Anesthesia. 2018 Aug; 32: 539-546	Original Article
68	Takayoshi M	薬剤師	Use of rifabutin to treat tuberculosis in a cardiac transplant recipient: A case report	International Journal of Clinical Pharmacology and Therapeutics. 2018 Apr; 56: 184-188	Original Article
69	Nakagita K	薬剤師	Effects of vitamin K epoxide reductase complex 1 gene polymorphisms on warfarin control in Japanese patients with left ventricular assist devices (LVAD)	European Journal of Clinical Pharmacology. 2018 Jul; 74: 885-894	Original Article
70	Uno T	薬剤師	Impact of the CYP3A5*1 Allele on the Pharmacokinetics of Tacrolimus in Japanese Heart Transplant Patients	European Journal of Drug Metabolism and Pharmacokinetics. 2018 Dec; 43: 665-673	Original Article
71	Nakagita K	薬剤師	Effect of fluconazole on the pharmacokinetics of everolimus and tacrolimus in a heart transplant recipient: Case report	International Journal of Clinical Pharmacology and Therapeutics. 2018 Jun; 56: 270-276	Original Article
72	Kataoka Y	冠疾患科医長	Serial Changes in Vessel Walls of Renal Arteries after Catheter-based Renal Artery Denervation: Insights from Volumetric Computed Tomography Analysis	International Journal of Nephrology and Renovascular Disease. 2018 Sep; 11: 259-266	Original Article
73	Noguchi T	心臓血管内科部長	Noninvasive Coronary Plaque Imaging	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis. 2018 Apr; 25: 281-293	Review

74	Ishibashi K	不整脈科医師	Japanese Antibacterial Drug Management for Cardiac Sarcoidosis (J-ACNES): A multicenter, open-label, randomized, controlled study	Journal of Arrhythmia. 2018 Aug; 34: 520–526	Original Article
75	Shibata A	臨床病理科医師	Decrease in exhaled hydrogen as marker of congestive heart failure	Open Heart. 2018 Sep; 5: e000814	Original Article
76	Amaki M	心不全科医師	Subacute Left Atrial Thrombus Formation After Percutaneous Edge-to-Edge Mitral Valve Repair for Functional Mitral Regurgitation	Circulation Journal. 2018 May; 82: 1712–1713	Original Article
77	Takahama H	心不全科医師	Plasma soluble neprilysin levels are unchanged during recovery after decompensation of heart failure: a matter of the magnitude of the changes in systemic haemodynamics?	European Heart Journal. 2018 Oct; 39: 3472–3473	Others
78	Kataoka Y	冠疾患科医長	Marking technique for identification of optimal stent landing site with optical coherence tomographic imaging	JACC: Cardiovascular Interventions. 2018 May; 11: e79–e80	Original Article
79	Yajima S	心臓外科医師	Multiple coronary stenting negatively affects myocardial recovery after coronary bypass grafting	General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2018 Aug; 66: 446–455	Original Article
80	Yajima S	心臓外科医師	A prostacyclin agonist and an omental flap increased myocardial blood flow in a porcine chronic ischemia model	Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2018 Jul; 156: 229–241.e14	Original Article
81	Kakuta T	心臓外科医師	Two Cases of Surgical Management of Supravalvular Aortic Stenosis in Familial Hypercholesterolemia	The Annals of Thoracic Surgery. 2018 Apr; 105: e171–e174	Case report
82	Uehara K	血管外科医長	Acute type A aortic dissection repair in younger patients	Journal of Cardiac Surgery. 2018 Apr; 33: 184–189	Original Article

83	Seike Y	血管外科医師	Total arch replacement versus debranching thoracic endovascular aortic repair for aortic arch aneurysm: what indicates a high-risk patient for arch repair in octogenarians?	General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2018 May; 66: 263-269	Original Article
84	Seike Y	血管外科医師	The Influence of 4 or more Patent Lumbar Arteries on Persistent Type II Endoleak and Sac Expansion after Endovascular Aneurysm Repair	Annals of Vascular Surgery. 2018 Jul; 50: 195-201	Original Article
85	Inoue Y	血管外科医師	Long-term outcomes of total arch replacement with non-Frozen elephant trunk technique for Stanford Type A acute aortic dissection	Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery. 2018 Sep; 27: 455-460	Original Article
86	Inoue Y	血管外科医師	What is the optimal surgical strategy for Stanford Type A acute aortic dissection in patients with a patent false lumen at the descending aorta?	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery. 2018 Nov; 54: 933-939	Original Article
87	Inoue Y	血管外科医師	Early results of total arch replacement under partial sternotomy	General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2018 Jun; 66: 327-333	Original Article
88	Nishiyama M	血管外科医師	Type IIIB endoleak caused by fabric erosion after thoracic endovascular aneurysm repair	Journal of Vascular Surgery Cases and Innovative Techniques. 2018 Apr; 4: 173-174	Case report
89	Omura A	血管外科医師	Endovascular repair of thrombosed-type acute Type A aortic dissection with critical renal artery malperfusion	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery. 2018 Dec; 54: 1142-1144	Case report
90	Nishii T	CT室医長	Dominant Spinal Feeder Through Arterial "Basket" of Conus Medullaris	The Annals of Thoracic Surgery. 2018 Oct; 106: e207	Case report

91	Koga M	外科部長	Acute ischemic stroke as a complication of Stanford type A acute aortic dissection: a review and proposed clinical recommendations for urgent diagnosis	General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2018 Aug; 66: 439–445	Review
92	Hosoki S	脳血管内科医師	Paradoxical elevation of plasma dabigatran after reversal with idarucizumab in stroke thrombolysis	Journal of Neurology. 2018 Oct; 265: 2451–2453	Case report
93	Koga M	外科部長	More Benefits From Endovascular Thrombectomy in Patients With Atrial Fibrillation?	Circulation Journal. 2018 Sep; 82: 2483–2484	Others
94	Koga M	外科部長	Cerebrorenal Interaction and Stroke Outcome	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis. 2018 Jul; 25: 566–567	Others
95	Toyoda K	副院長	Consensus Guides on Stroke Thrombolysis for Anticoagulated Patients from Japan: Application to Other Populations	Journal of Stroke. 2018 Sep; 20: 321–331	Original Article
96	Ihara M	脳神経内科部長	Collagen-binding Streptococcus mutans tied to cerebral microbleeds and hemorrhagic stroke	Future Neurology. 2018 Sep; 13: 219–224	Original Article
97	Ishiyama H	脳神経内科医師	Rolling stones sign as hard-and-fast evidence of calcified cerebral emboli	Neurology. 2018 Jul; 91: 41–43	Original Article
98	Kido T	小児心臓外科医師	Impact of Hybrid Stage 1 Palliation for Hypoplastic Left Heart Syndrome: Histopathological Findings	Pediatric Cardiology. 2018 Jun; 39: 1001–1008	Original Article
99	Nakamura Y	小児心臓外科医師	Successful surgical repair for common arterial trunk with anterior crisscross pulmonary arteries and right aortic arch causing right bronchial compression	General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2018 Nov; Epub	Case report

100	Ozawa H	小児心臓外科医師	Veno-venous malformation developed prior to Kawashima operation in a patient with interrupted inferior vena cava	Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery. 2018 Jul; 27: 148-150	Case report
101	Miyamoto K	不整脈科医長	Pathology after a combination of sequential and simultaneous unipolar radiofrequency ablation of ventricular tachycardia in a postmortem heart with cardiac sarcoidosis	Clinical Case Reports. 2018 May; 6: 1219-1224	Original Article
102	Tateishi E	RI室医師	¹⁸ F-FDG PET/CT for Detecting Cardiac Sarcoidosis: Preparation and Interpretation	Annals of Nuclear Cardiology. 2018 Aug; 8: 151-154	Original Article
103	Fukuda T	放射線部長	Selective Inferior Mesenteric Artery Embolization during Endovascular Abdominal Aortic Aneurysm Repair to Prevent Type II Endoleak	Kobe Journal of Medical Sciences. 2018 Jul; 63: E130-E135	Original Article
104	Nakano A	放射線科医師	¹²³ I-Labeled oxLDL Is Widely Distributed Throughout the Whole Body in Mice	Nuclear Medicine and Molecular Imaging. 2018 Apr; 52: 144-153	Original Article
105	Fukuda T	放射線部長	A unique computed tomographic finding: Dissection? Congenital structure? Artifact? New entity?-Significance in diagnosis of the "intra-aortic chord"	Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2018 Jul; 156: 357	Others
106	Ohta Y	MRI室医長	Myocardial Delayed Enhancement CT for the Evaluation of Heart Failure: Comparison to MRI	Radiology. 2018 Sep; 288: 682-691	Original Article
107	Fukushima N	移植医療部長	Is B-type natriuretic peptide (BNP) similarly associated with mortality in patients with and without heart failure?	Annals of Translational Medicine. 2018 Nov; 6: S9	Others

計107件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	☒ 有 ☐ 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	☒ 有 ☐ 無
・ 手順書の主な内容 倫理委員会の運営、「委員会の責務」、「倫理審査予備調査」、「審査の方法」、「研究許可申請手続き」、「迅速審査」、「研究者等の責務」、「実施状況報告の審査」等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	☒ 有 ☐ 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	☒ 有 ☐ 無
・ 規定の主な内容 「利益相反マネジメントの対象」、「職員等の責務」、「利益相反マネジメント委員会所掌事項」、「調査結果に基づく処置」、「異議申立て」等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 4 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容 「医学系研究と個人情報保護」「臨床研究倫理の基礎」「改正個人情報保護法に基づく指針改正の方向」「終末期の倫理的考え方とDNAR指示」	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

心臓血管内科プログラム 不整脈科・肺循環科・心不全科・冠疾患科・血管科・重症心不全・心臓移植・循環器救急 心臓血管外科 脳血管内科プログラム 脳血管内科・脳神経内科、脳神経外科 小児循環器科プログラム 小児循環器科コース・周産期コース・小児心臓外科コース・新生児小児集中治療コース 成人先天性心疾患コース 予防健診プログラム 高血圧・腎臓科・動脈硬化・糖尿病内科・予防健診部 中央診療部門 心血管リハビリテーション科コース・病理コース・麻酔科コース・放射線コース 臨床遺伝科コース
--

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	117人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
野口 暉夫	心臓血管内科	心臓血管内科部長	30 年	
豊田 一則	脳血管・神経内科	脳血管部門長	31 年	
嚙地 道代	精神科	精神科医師	17 年	
黒寄 健一	小児循環器科	小児循環器部特任部長	31 年	
小林 順二郎	心臓血管外科	院長	38 年	
市川 肇	小児心臓外科	小児心臓外科部長	34 年	
仲川 豪一	整形外科	整形外科医師	20 年	
高橋 淳	脳神経外科	脳神経外科部長	27 年	
中川 幸延	皮膚科	皮膚科医師	16 年	
藤田 和利	泌尿器科	泌尿器科医師	20 年	
吉松 淳	産婦人科	周産期・婦人科部長	31 年	
辻川 元一	眼科	眼科医師	25 年	
佐々木 崇博	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科医師	13 年	
福田 哲也	放射線科	放射線部長	23 年	
大西 佳彦	麻酔科	副院長	35 年	
佐田 誠	呼吸器内科	呼吸器科医長	30 年	
鏡内 肇	歯科	歯科医師	23 年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容：循環器病診療に従事する看護師、診療放射線技師、臨床検査技師及び臨床工学技士に対し、高度の専門的知識及び技術を修得させ、専門職員の技術・知識の向上を図ることを目的とする。 ・研修の期間・実施回数：3日間・1回／年 2日間・1回／年 ・研修の参加人数：3日間コース・48名 2日間コース・1名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2.) 現状
管理責任者氏名	病院長 小林 順二郎
管理担当者氏名	総務課長：西川 祐史、医事室長：森 隆一、情報管理室長：平松 治彦、 薬剤部長：老田 章

		保 管 場 所		管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌		平成24年1月より診療記録は電子保存（電子カルテ）としている。従前のカルテ、X線フィルム等については1患者1ファイル方式とし、集中管理している。診療録等の院外持ち出しは原則禁止としている。病院長の許可を得た場合のみ可能としている。
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
		高度の医療の提供の実績	医事室	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究医療課	
		高度の医療の研修の実績	研究医療課	
		閲覧実績	情報管理室	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事室	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事室 薬剤部	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全室	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全室	

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染対策室	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全室	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全室	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全室	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全室	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全室	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全室	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全室	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全室	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全室
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	情報管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	研究医療課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	研究医療課
		監査委員会の設置状況	医事室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全室
		職員研修の実施状況	医療安全室
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全室
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	医療情報部長：平松 治彦	
閲覧担当者氏名	総務課長：西川 祐史、医事室長：森 隆一	
閲覧の求めに応じる場所	診療録等開示閲覧室	
閲覧の手続の概要		
円滑な運用を確保するため、情報公開窓口を設置し運用		
① 開示申請者から所定の申請書提出		
② 申請書を受けて開示・不開示の決定		
③ 申請者に対し開示・不開示の決定通知書の送付		
④ 当該文書等の閲覧		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 第1章【1.趣旨 2.医療安全の基本的な考え方 3.医療安全に係る安全管理のための委員会・組織に対する基本的事項 4.医療安全に係る安全管理のための職員に対する研修に関する基本方針 5.センターにおける事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 6.医療事故発生時の対応に関する基本方針 7.医療従事者と患者との情報共有に関する基本方針 8.患者からの相談への対応に関する基本方針 9.その他の医療安全の確保のための基本方針】、第2章から構成。第2章は、用語の定義、第1章2～9の実務的内容を記す。	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況 ・ 設置の有無（有・無） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容：ア)医療安全管理指針の制定、改訂に関すること。イ)医療安全管理に関する職員への教育・研修に関すること。ロ)医療安全確保を目的とした改善のための検討に関すること。エ)医療事故等重大な問題が発生した場合の対応に関すること。ウ)医療事故の分析及び再発防止策の検討並びに立案された防止対策及び改善策の実施状況の調査及び評価、見直しに関すること。カ)医療安全管理に関する研究、広報、院外活動に関すること。キ)医療安全上の訴訟に関すること。ク)診療に関する患者・家族からの意見、要望に関すること。ケ)その他医療安全管理に関すること等	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年2回
・ 研修の内容（すべて）： 全職員対象医療安全講習会 ・ 第1回「チームを活性化させるコーチング流コミュニケーション」 ・ 第2回「患者・家族が望む医療安全と患者サポート体制」	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況 ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容：医療安全コア会議のメンバーがコメディカルを含む構成になっており、コア会議で検討した上、医療安全室員会議、推進担当者会議からの意見を集約し改善策を検討し、最終、医療安全委員会で決定し職員へ周知している。	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
・ 指針の主な内容： ① 院内感染対策に関する基本的考え方 ② 院内感染管理体制 ③ 職員研修 ④ 感染症の発生状況の報告 ⑤ 院内感染発生時の対応 ⑥ 患者への情報提供と説明 ⑦ その他の院内感染対策の推進	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
・ 活動の主な内容： ① 院内感染症の調査、予防対策の立案 ② 予防対策実施の監視と助言、指導、勧告 ③ 職員の教育指導 ④ 院内感染対策の指針及びマニュアルの作成・見直し ⑤ その他委員長が必要と認める事項	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4 4 回
・ 研修の内容（すべて）： ・ 正しい手指衛生と P P E の装着 ・ 長引く咳にどう対処するか ・ ワクチンで予防できる職業感染 ・ 夏の感染症と対策 ・ 栄養管理、デバイス管理と感染対策について ・ 冬の感染症と対策	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容：	
感染対策室に報告がされ、感染対策室は感染対策委員会を開催し、原因究明及び感染拡大防止対策の立案を行う。加えて、必要に応じて現地調査を行い、状況を逐一院長に報告する。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	(有) 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回
・ 研修の主な内容： ・ 医薬品安全管理について ・ 麻薬等の取り扱いについて ・ 抗菌薬・免疫抑制剤のTDMについて ・ 免疫抑制剤について ・ PCI後の抗血小板薬について ・ 管理薬品について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 ・ 手順書の作成 (有) 無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： ①医薬品の採用 ②医薬品の購入 ③調剤室における医薬品の管理 ④病棟・各部門への医薬品の供給 ⑤外来患者への医薬品使用 ⑥在宅患者への医薬品使用 ⑦病棟における医薬品の管理 ⑧入院患者への医薬品使用 ⑨医薬品情報の収集・管理・提供 ⑩手術・麻酔部門 ⑪集中治療室（ICU・NCU）⑫輸血・血液管理部門 ⑬生命維持管理装置領域 ⑭臨床検査部門、画像診断部門 ⑮他施設との連携 ⑯事故発生時の対応 ⑰教育・研修	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有) 無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医薬品メーカーおよび医薬品医療機器総合機構等から随時情報を収集。 院内webにてDIニュースとして発信。 重大情報・緊急情報については文書による回報を合わせて行い、各職員が伝達確認票に押印のうえ、専任医療安全管理者が回収し、伝達状況を確認している。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年63回
・ 研修の主な内容： ○第1回人工呼吸器講習会（Servo i、BiPAP、AVEA、DPAP、Hamilton他） ○第2回人工呼吸器講習会（Servo i、BiPAP、AVEA、DPAP、Hamilton他） ○第1回補助人工心臓装置講習会（Dura Heart、EVAHEART、Heart Mate II） ○第2回補助人工心臓装置講習会（Dura Heart、EVAHEART、Heart Mate II） ○PCPS・IABP講習会 ○閉鎖式保育器講習会 ○サイクロトロン研修 他	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 （有・無） ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 保守点検計画表に基づき、臨床工学技士若しくは委託業者により定期点検を実施している。また各使用部署において外観、作動状況等の日常点検を実施している。 ○日常点検（始業時点検・使用中点検・終業時点検） ○定期点検（電氣的安全点検・外観点検・機能点検・性能点検・定期交換部品等の交換等） ○故障時点検（定期点検に準じた点検を行い故障箇所を特定する）	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （有・無） ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医薬品・医療機器安全情報をはじめ、メーカーからの提供情報、インターネットによる情報検索により、医療機器の安全使用関連情報を収集し、医療安全委員会等で資料を配付し、各職場で伝達している。 伝達状況については伝達確認票を回収し、確認している。	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	(有)・無
・ 責任者の資格 (医師)・歯科医師) ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 医療安全担当副院長 (医師) を医療安全管理責任者として配置している	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有) (2名) ・ 無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医薬品安全使用手順書の作成・改訂、手順に従った業務遂行の確認及び記録 医薬品安全使用のための研修の企画・運営 医薬品の安全使用のための情報収集と職員への情報提供 医薬品安全使用を目的とした改善方策の実施 新規医療評価室室員として未承認薬等の審議 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 新規医療評価室にて毎月委員会を開催し、申請内容の議論及び決定を行っている。 ・ 担当者の指名の有無 (有)・無) ・ 担当者の所属・職種： (所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種) (所属：感染対策室， 職種 看護師) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種)	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有)・無
・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ((有)・無) ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 ：説明事項・説明範囲・成立要件・手順・留意事項について監査結果を委員会にて報告	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	☒ 有 ☐ 無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：診療情報管理室長の監督のもと、診療情報管理士が診療録等を管理し、責任者の医療情報部長に報告している	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	☒ 有 ☐ 無
・所属職員：専従（３）名、専任（２）名、兼任（３）名 うち医師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（１）名 うち薬剤師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（１）名、専任（２）名、兼任（ ）名 （注）報告書を提出する年度の１０月１日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： ・医療安全の確保を目的とした改善のための検討に関すること ・医療事故等重大な問題が発生した場合の対応に関すること ・医療事故の分析及び再発防止策の検討並びに立案された防止対策及び改善策の実施状況の調査及び評価、見直しに関すること ・重大な医療事故等の発生等委員長が必要と判断した場合は、適宜開催できるものとする。 ・月に１回開催する医療推進委員会の重要伝達内容、インシデント・アクシデント報告、注意喚起をリスクマネージャーから各部門において、従事者全員に周知し、周知者の記名を行い、モニタリングを行っている。全職員を対象とした医療安全の研修会を年間２回以上開催し、受講状況を確認した。アンケート調査を実施し、医療安全に対する認識について、意識調査のモニタリングを行っている。 ※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（０件）、及び許可件数（０件） ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（☒ 有 ☐ 無） ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療	

技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）

・活動の主な内容：申請手続き、審査の方法等

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）

・活動の主な内容：申請手続き、審査の方法等

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年169件

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年160件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

・死亡患者の状況報告（重症回診の有無・警察への届出の有無等）

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（☒有（病院名：兵庫医科大学病院）・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（☒有（病院名：兵庫医科大学病院）・無）

・技術的助言の実施状況

○リスクラウンドについては、ラウンド時のチェックシートがあった方がよい。

⇒他職種とのリスクラウンドについては目的ごとに関係職種で行っている。

①転倒転落リスクラウンドについては、療養環境が整備されているか（ベッド周囲、ベッド・床頭台・オーバーベッドテーブル等の配置状況、行動制限・身体抑制等の状況など）、転入時・状態変化時などに看護計画が見直し・評価されているかどうかを主に観察及びヒアリングを行っている。

②モニターリスクラウンドについては、不必要なアラーム発生となっていないか、モニター波形が出ていない患者の所在把握ができているか・所在を明示できているかどうか、について観察・ヒアリングを行っている。

③薬品管理ラウンドについては、病棟配置薬の管理が適切か、冷蔵庫の温度管理ができており管理日誌に記載されているか、を調査している。ラウンド実施者間で共通理解・共有できており、結果についても記録し関係会議で報告している。

①～③については、結果について記録し関係会議で報告している。これらのチェックシートについては、移転後に関係者間で検討することとする。

○短期の職員でも医療安全の教育がなされることを期待する。

⇒当院では、看護部については主に国立病院機構病院から1年コース・2年コースでエキスパートナースとして受け入れを行っている。研修期間は当院職員として辞令発行・処遇となり、当院看護部リーダープログラム及び配置部署のOJTにより教育・フォローを行っている。医療安全についての教育・指導は、医師・看護師・コメディカル含め、短期の職員についても4月入職時の医療安全研修（年度途中者についてはeラーニング）を受講している。また全職員対象とする2回/年の医療安全講習会を受講してもらっている。今後は医療安全講習会の内容やeラーニング等、研修のあり方について検討したいと考えている。

＜医薬品等の安全使用体制・同責任者の業務等の状況＞

○適応外医薬品の使用状況の把握について、病棟担当薬剤師が把握を行っているが、その内容を漏れなく医薬品安全管理責任者が把握できるように手順を整備する。

○医薬品の安全使用のための手順書の実施状況確認において、医師との相互チェックについても行っていくよう手順を整備する。また、医薬品安全管理責任者が確認しているという記録（サイン等）ができるように様式を変更する。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者相談窓口を設置し、平日の８：３０～１７：１５に外来１番窓口にて対応する。また、窓口設置について院内掲示もしている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況 新採用者研修として、当院におけるインシデント・アクシデント発生状況と特徴、発生時の報告方法、インフォームドコンセントや医療安全に関連する記録記載時の注意点についての説明、インシデント発生後の改善策としての院内ルールについて説明を実施。

年２回実施する医療安全研修は前年度の研修時に実施したアンケートに基づき、講師を招き全職員を対象に実施。理解についてはアンケートにより把握している。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

日本医療機能評価機構が開催する研修を受講

管理者 2019年1月21・22日、医療安全管理責任者 2018年11月21・22日

医薬品安全管理責任者 2019年1月21・22日、医療機器安全管理責任者 2018年11月21・22日

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準 - 基準の主な内容 1 日本国の医師免許を有していること 2 当センター病院又はセンター病院以外の病院において、以下のいずれかの業務に従事した経験及び医療安全管理に関する十分な知見を有するとともに、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力を有していること - ア 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務 - イ 医療安全管理委員会の構成員としての業務 - ウ 医療安全管理部門における業務 - エ その他上記に準ずる業務 3 センター病院又はセンター病院以外の病院において、病院長又は副院長及びそれらに準ずる職のいずれかでの組織管理経験があり、高度の医療の提供、開発及び評価等を行う特定機能病院の管理運営上必要な資質及び能力を有していること 4 センター病院の理念及び基本方針を十分に理解し、高い使命感を持って継続的かつ確実に職務を遂行する姿勢及び指導力を有していること - 基準に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ） - 公表の方法 当センターホームページに掲載

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 ☒ 無 ☐			
- 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有 ・ 無 ） - 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有 ・ 無 ） - 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有 ・ 無 ） - 公表の方法				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有 ・ 無
				有 ・ 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための
合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有 ・ 無		
・ 合議体の主要な審議内容 名称：執行役員会 理事会で決定した重要事項を遂行するため、センターの所掌事務に関する事項の企画及び立案並びに調整に関する事務を総括整理するとともに、理事会の任務を補佐するため、センターの運営の方針、計画、予算及び決算その他のセンターの運営に関する重要な事項について審議する。 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 各部署の部長等会議により、執行役員会での審議事項を報告し、各部署へ周知している。 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 無 ） ・ 公表の方法 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無（ 有 無 ） 執行役員会に、非常勤監事2名（公認会計士及び弁護士）がオブザーバー参加し、意見を述べていただいている。			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
小 川 久 雄	○	医 師	理事長
望 月 直 樹		医 師	理事・研究所長・研究開発基盤センター長
稲 川 武 宜		事 務	企画戦略局長・企画経営部長
小 林 順二郎		医 師	病院長
安 田 聡		医 師	副院長
豊 田 一 則		医 師	副院長
飯 原 弘 二		医 師	副院長
巽 英 介		医 師	副研究開発基盤センター長
山 本 晴 子		医 師	理事長特任補佐
穴 戸 稔 聡		医 師	理事長特任補佐
宮 下 克 巳		事 務	総務部長・人事部長
石 井 厚 司		事 務	財務経理部長
中 森 幸 雄		事 務	移転建替推進部長
平 松 治 彦		事 務	情報統括部長
木 村 尚 巧		弁護士	コンプライアンス室長
老 田 章		薬剤師	薬剤部長
三 井 佐代子		看護師	看護部長

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有 ☒ 無 ☐ ）
- ・ 公表の方法
- ・ 規程の主な内容
病院人事委員会規程（管理者が委員長）において、「特定機能病院としての機能を確保するために病院長が必要と認めた人事に関すること」を委員会での審議事項の一つとしている。
また、理事会規程においては、「理事会において、国立循環器病研究センター病院の運営方針、中期計画、予算及び決算、その他の病院の運営に関する重要な事項が審議される際には、病院長は出席して意見を述べることができる。理事会は、その意見について十分審議した上で決定しなければならない。」としている。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
組織規程において、「副院長は、院長を助け、病院の事務を整理する」と規定している。
また、総務、人事、財務経理、企画経営等の各事務部門においても、管理者を積極的にサポートしている。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
国立病院機構、厚生労働省との人事交流により医療行政、病院の運営管理に精通する人材の確保に努めている。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する
監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	☒ 有 ・ 無				
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容 病院の医療安全にかかる活動報告、インシデント・アクシデント事例報告 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 委員名簿の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 委員の選定理由の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 当センターホームページに掲載					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
小島 崇宏	大阪 M&A 法律事務所	○	法律に関する識見を有する	有 ・ ☒ 無	1
國子 克雄	心を守る会		医療を受ける者	有 ・ ☒ 無	2
安田 聡	国立循環器病研究センター		医療安全部外の立場からの監査	☒ 有 ・ 無	3

- （注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に
適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

コンプライアンス推進規程を整備し、管理者を含む役職員が全ての法令等を遵守し、社会規範を尊重するとともに、センターの業務活動が高い倫理性を持って行われることを確保するためのコンプライアンスの推進に必要な事項を定めている。

また、管理者を含む役職員の法令遵守の状況を検証するため、2 か月に 1 回コンプライアンス委員会を開催している。

・ 専門部署の設置の有無 (☒ 有 ☐ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (☒ 有 ☐ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (☐ 有 ☒ 無)

・ 公表の方法

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る
体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 - 当センターの理事会において審議する事項として、業務方法書、中期計画・年度計画に関する事項、財務諸表・決算報告書及び事業報告書に関する事項等に加え、特定機能病院の業務に関する事項についても審議することとして理事会規程に定めている。 - また、同規程において「病院の運営方針、中期計画、予算及び決算、特定機能病院の業務に関する事項その他の病院の運営に関する重要な事項が審議される際には、病院長は出席して意見を述べることができる。」と規定し、原則として毎回出席している。 ・ 会議体の実施状況（ 年 12 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒ 有 ・ 無 ）（ 年 12 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・ ☒ 無 ） ・ 公表の方法			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：理事会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
小 川 久 雄	理事長（内部統制担当役員）	○	有 ☒ 無
望 月 直 樹	理事・研究所長・研究開発基盤センター長		有 ☒ 無
尾 崎 裕	大阪商工会議所会頭		有 ☒ 無
瀧 原 圭 子	大阪大学キャンパスライフ健康支援センター教授		有 ☒ 無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に
疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（☒有・無）
- ・ 通報件数（年 0 件）
- ・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための
方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（☒有・無）
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（☒有・無）
- ・ 周知の方法
役職員一斉メール・電子カルテ周知事項掲載

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	☒ 有 ☐ 無
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構による病院機能評価 平成 27 年 6 月 5 日認定（平成 27 年 3 月 11、12 日受審）	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	☒ 有 ☐ 無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 ホームページで循環器に関する主な疾患について、その原因や治療法などについて分かりやすく紹介している。 定期的に市民公開講座を開催し、循環器疾患かかる情報提供・啓蒙活動を実施している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	☒ 有 ☐ 無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 各診療科にコンサルティングドクターを設けており、速やかな連携を図っている。	